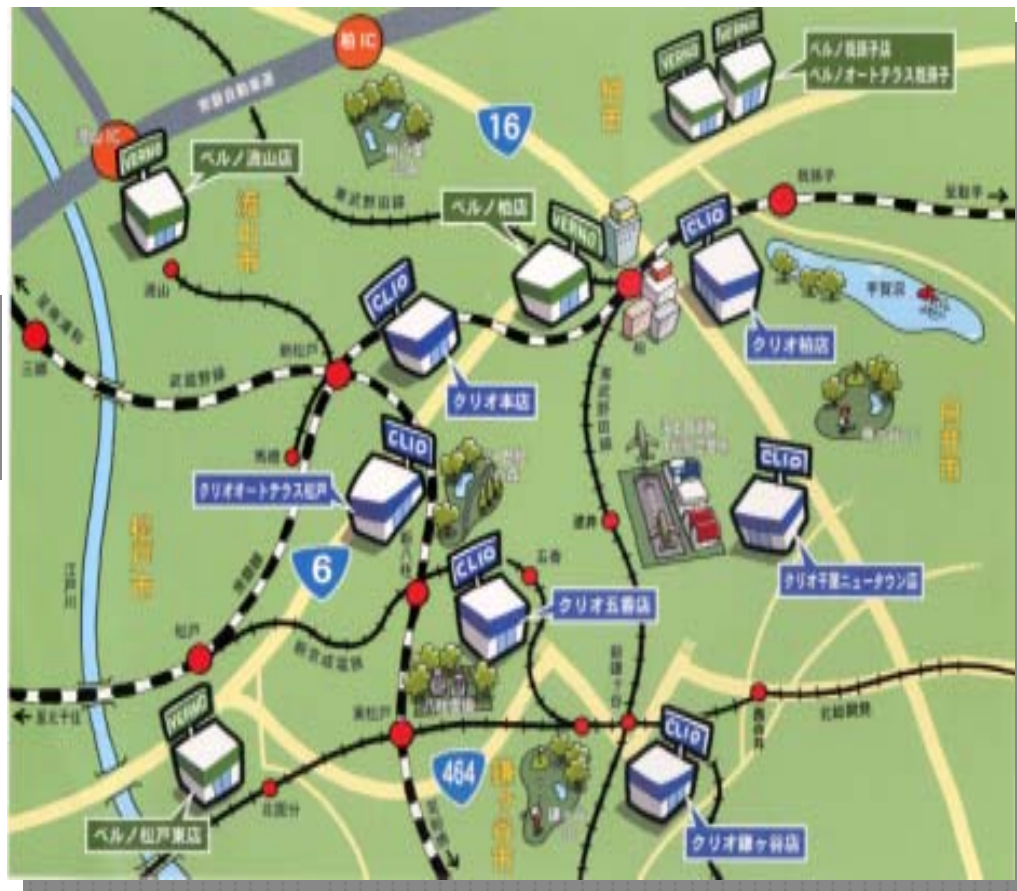


会社説明会

株式会社ホンダクリオ東葛

JASDAQ 2754

2005年11月28日



東葛エリアを11拠点をカバーするネットワーク

《ホンダの販売チャンネル》



CLIO

レジェンドを中心とした上級志向のチャンネル



VERNO

S2000などのスポーツ志向のチャンネル



PRIMO

軽自動車を中心としたファミリー志向のチャンネル

Contents

- 会社概要
- 財務ハイライト
- 自動車販売業界におけるポジショニング
- ビジネスモデル
- 平成18年3月期中間決算業績および平成18年3月期業績予想

会社概要

- 社名 : 株式会社ホンダクリオ東葛
- 設立 : 昭和44年1月
- 資本金 : 210.3百万円
- 従業員数 : 連結131人、単体74人
- 連結対象 : 株式会社ホンダベルノ東葛 (100%子会社、資本金50百万円)
- 事業内容 : 自動車販売関連事業を中心とした4つの柱
 - 新車販売
 - 中古車販売
 - サービス(点検整備等)
 - その他(自動車ローン、自動車保険等)

(2005年3月末現在)

財務ハイライト

平成17年3月期決算ハイライト(連結)

単位: 百万円

	平成15/3期	平成16/3期	平成17/3期
売上高	8,566	6,930	7,547
営業利益	502	378	470
経常利益	439	395	459
当期純利益	252	221	228
総資産	6,898	6,675	6,931
純資産	1,659	1,805	1,966
1株当たり当期純利益(円)	51.28	41.88	47.25
1株当たり純資産(円)	337.90	369.79	407.04
1株当たり配当金(円)	10	10	10
総資本経常利益率	6.4%	5.8%	6.8%
株主資本比率	24.1%	27.1%	28.4%
売上高経常利益率	5.1%	5.7%	6.1%
株主資本当期純利益率	15.1%	11.7%	12.1%

財務ハイライト

貸借対照表(主な項目)

	連結(単位:百万円)		前年同期比
	平成16/3月期	平成17/3月期	
流動資産合計	3,947	4,083	103.4%
現金及び預金	653	701	
受取手形及び売掛金	2,888	2,914	
固定資産合計	2,727	2,848	104.4%
有形固定資産	2,169	2,318	
長期貸付金	151	149	
差入保証金	236	193	
総資産	6,675	6,931	103.8%
流動負債合計	3,833	3,973	103.7%
短期借入金	2,843	2,859	
固定負債合計	1,035	991	95.7%
長期借入金	297	278	
資本の部合計	1,805	1,966	
負債・資本合計	6,675	6,931	103.8%

**受取手形分
2,712百万円**

参考 当社は自動車ローンを自社で取り扱っておりますが、この代金の集金業務を株式会社オリエントコーポレーションに委託しています。その際お客様のお支払内容に合わせた金額の手形を振り出して頂き、割賦代金の総額を一括して受け取っています。

**この内、手形を担保
とした借入金は
2,712百万円**

参考 当社はこの手形を金融機関に担保として差し入れ、同額の融資を受けて運転資金として使用しています。この融資の返済は差し入れた手形の月々の落ち込み額を充当しています。仮にこれを表の上で相殺消去しますと株主資本比率が現在の28.4%から約46.6%と向上しますが、当社グループではこの「受取手形」と同額の「短期借入金」を両建てにすることで、リスクの金額を明確にしております。

自動車販売業界における ポジショニング

業界平均との収益力比較

主要財務データ比較

連結、単体ベースともに、収益力(経常利益率)において、全国平均対比、大幅に上回っている。

平成17/3期 全国ディーラー平均対比

単位:百万円

	平成17/3期 ホンダクリオ 東葛(単体)	平成17/3期 ホンダベルノ 東葛(単体)	平成17/3期 当社 連結	平成17/3期 全車種店 1社平均
売上高	4,432	3,187	7,547	9,678
経常利益	347	118	459	133
同率	7.8%	3.7%	6.1%	1.4%
当期純利益	165	69	228	113
同率	3.7%	2.2%	3.1%	1.2%

日本自動車販売協会連合会より

業界平均との収益力比較

主要財務データ比較

連結、単体ベースともに、収益力(経常利益率)において、全国平均対比、大幅に上回っている。

平成17/3期 全国ホンダディーラー平均対比

単位:百万円

	平成17/3期 ホンダクリオ 東葛(単体)	平成17/3期 ホンダベルノ 東葛(単体)	平成17/3期 当社 連結	平成17/3期 全国ホンダ ディーラー平均*1
売上高	4,432	3,187	7,547	3,864
経常利益	347	118	459	45
同率	7.8%	3.7%	6.1%	1.2%
当期純利益	165	69	228	27
同率	3.7%	2.2%	3.1%	0.7%

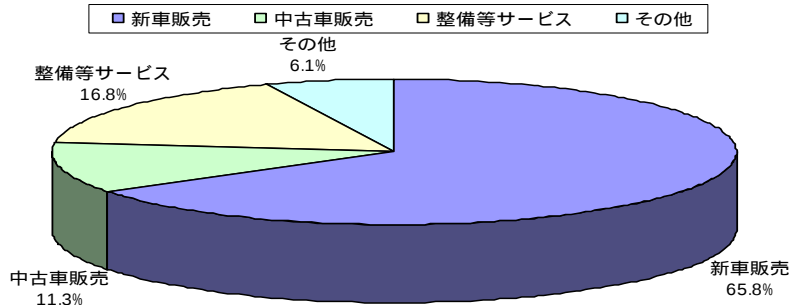
*1: 全国主要ホンダディーラー344社の平均

ビジネスモデル 当社の特徴と 事業部門の紹介

ビジネスモデル 《部門別構成比》

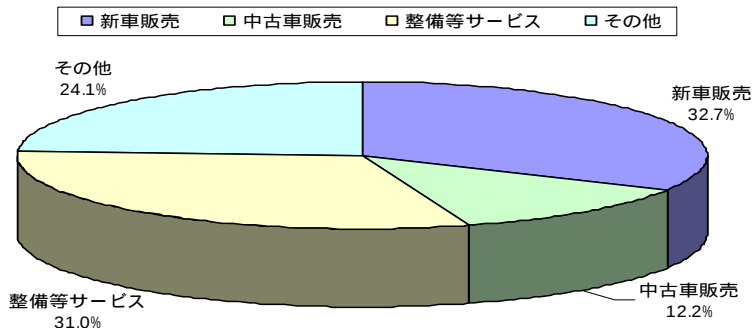
販売単価が高額である新車販売部門が売上高に付いては大きな割合を占めるが、粗利益構成比ではサービス部門と同等となり、ローンや保険を中心としたその他の部門と共に新車販売以外の収益が大変重要である。

《部門別売上高(連結)》



	売上高 (単位: 百万円)			
	平成16/3期	平成17/3期	構成比	前年同期比
新車販売	4,465	4,966	65.8%	111.2%
中古車販売	796	853	11.3%	107.1%
整備等サービス	1,197	1,267	16.8%	105.8%
その他	470	460	6.1%	97.8%
合計	6,930	7,547	100.0%	

《部門別粗利益(連結)》



	粗利益 (単位: 百万円)			
	平成16/3期	平成17/3期	構成比	前年同期比
新車販売	482	519	32.7%	107.7%
中古車販売	176	193	12.2%	109.7%
整備等サービス	454	492	31.0%	108.4%
その他	396	382	24.1%	96.5%
合計	1,509	1,587	100.0%	

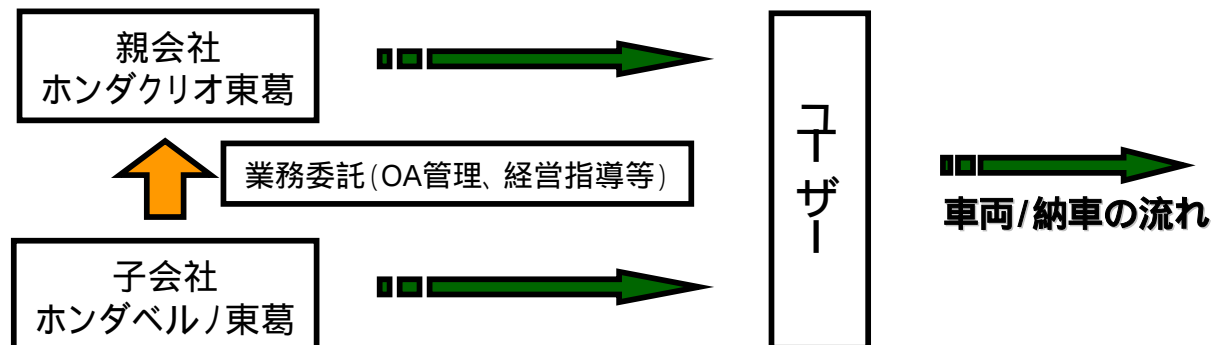
ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

新車販売部門

- 新車販売は、本田技研工業株式会社の新車を販売
- ホンダクリオ東葛：クリオ系列として、5店舗を運営
- ホンダベルノ東葛：ベルノ系列として、4店舗を運営

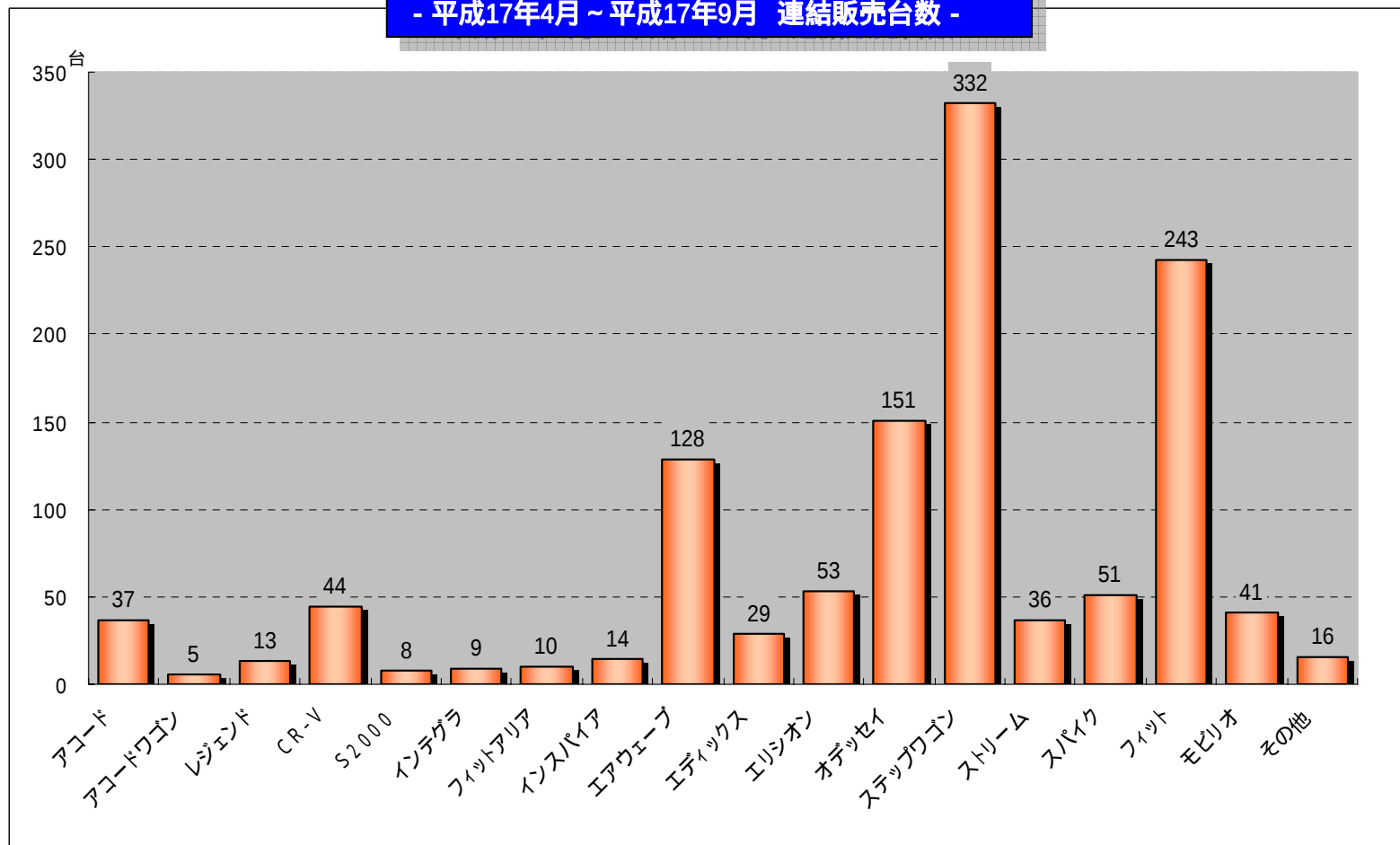
	クリオ系列 (株式会社ホンダクリオ東葛)	ベルノ系列 (株式会社ホンダベルノ東葛)
専売車	レジェンド、アコード、アコードワゴン	S2000、CR-V、インテグラ MDX、
クリオ、ベルノ 併売車	インスパイア、エリシオン、エディックス、オデッセイ、ステップワゴン、ストリーム、フィット、 フィットアリア、モビリオ、モビリオスパイク、インサイト、エアウェイブ、パートナー	

事業系統図



平成18年3月期中間決算 車種別新車登録台数

- 平成17年4月～平成17年9月 連結販売台数 -



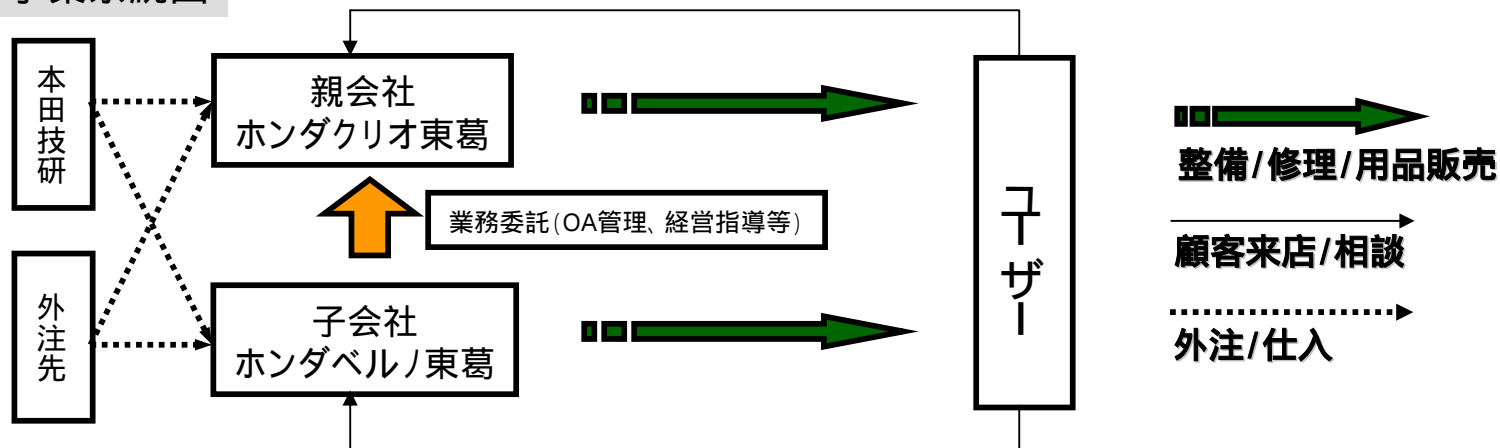
ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

サービス部門

- 自動車の車検、12ヶ月点検整備、および钣金修理等の整備全般
- 自動車用品の販売
- 工場：クリオ系列6工場、ベルノ系列4工場
- 内訳：陸運局指定工場（クリオ5、ベルノ2）、認証工場（クリオ1、ベルノ2）
- 特徴：環境問題にも取り組んでおり、本田技研工業の「ベストグリーン」店に認定

*ベストグリーン：本田技研工業の独自制度であり、環境保全に貢献していると認定する店舗のうち、最上級ランクに位置付けられているもの。

事業系統図

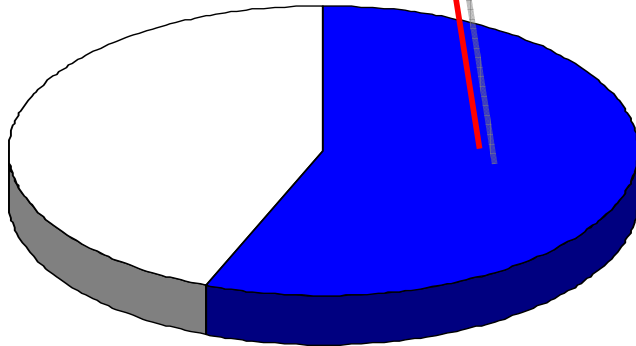


サービス部門(参考資料)

当社連結

サービス部門 総経費カバー率

56.06%

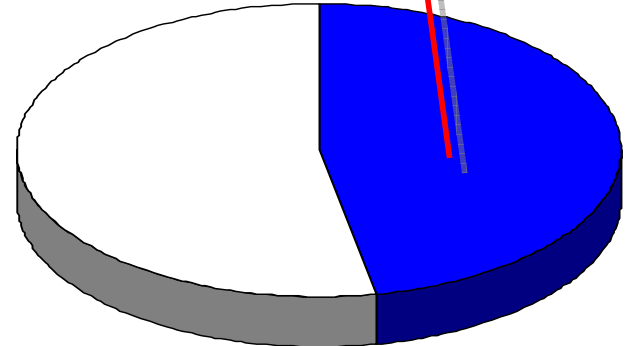


サービス部門粗利益	395,399千円
総経費	705,340千円

ホンダ他社平均(南関東)

サービス部門 総経費カバー率

46.87%



サービス部門粗利益	364,289千円
総経費	777,239千円

その他部門 <ローン事業>

当社グループの中に、「信販会社」があるイメージ

- 主力商品：自動車ローン「ホンダ東葛オリジナルローン」
(ローン手数料収入)

一般の自動車ローンが「立替払い方式」を多く採用しているのに対し、当社では「集金保証方式」を採用し、収益の安定確保につなげています。

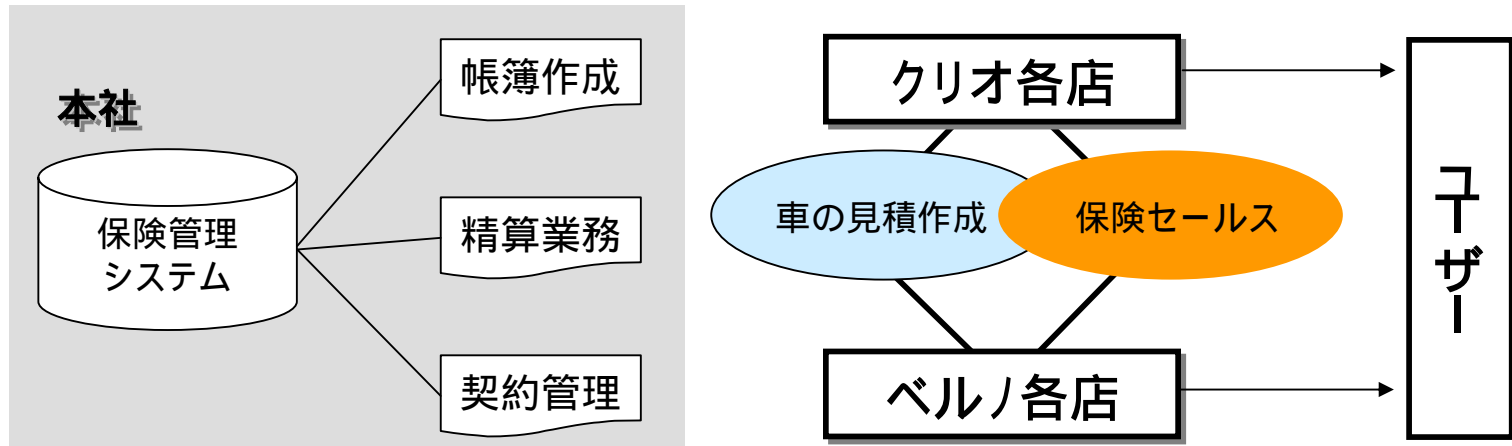
事業系統図



その他部門 < 保険事業 >

- 主力商品：自動車任意保険（保険手数料収入）
- 見積書の情報を生かして、自動車の任意保険をセールス
- あいおい損害保険株式会社の損害保険代理店の最上級種別である「J特級」を平成15年12月に取得

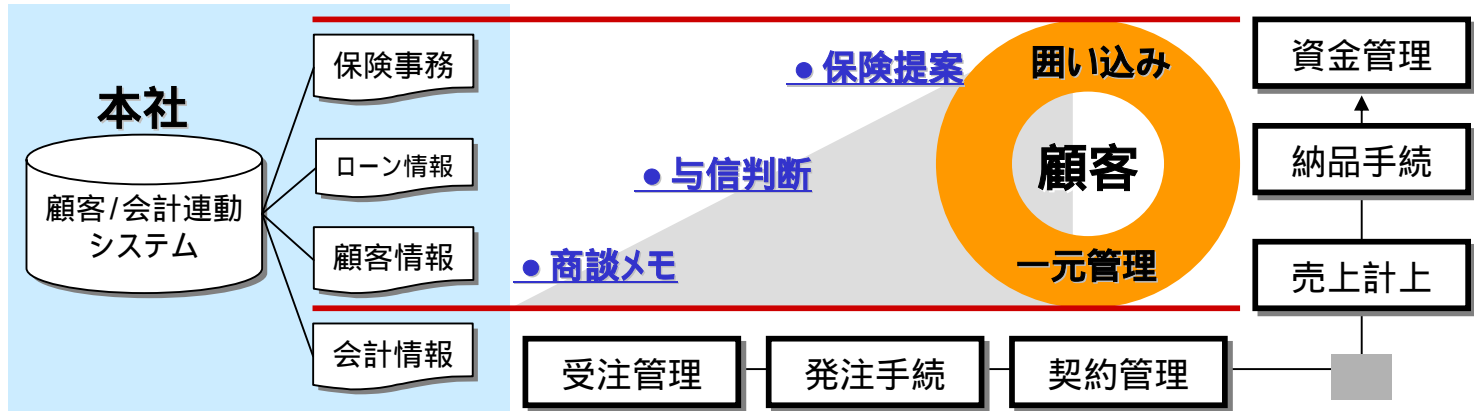
事業系統図



内部管理体制

- 当社では、独自の管理システムを自社開発
- 強み:「1つの仕組み」で「全部の仕組み」が完結すること

イメージ図



導入効果

すべて自社で開発

- 顧客管理、メーカーへの報告、会計情報が一体化したことで、「情報」が「ナレッジ」化
- 管理部門の省力化につながり、より強固な収益体質を実現
- 必要な情報を必要な時に取り出すことができ、迅速な経営判断が可能になった。

平成18年3月期中間決算業績 及び平成18年3月期業績予想

平成18年3月期中間決算 ハイライト

	17年3月期 中間期実績	18年3月期 中間期予想	18年3月期 中間期実績	予想対比	前年 同期比
売上高	3,639	3,729	3,654	98.0%	100.4%
経常利益	208	179	225	125.7%	108.4%
当期純利益	116	106	127	119.9%	109.7%

(単位:百万円)

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

平成18年3月期中間決算 要因分析

業界全体につきましては、新型車や軽自動車を中心に、当中間期の国内自動車販売台数は2,798,402台（登録車と軽自動車の合計）となり、前期比では3.5%の増加となりました。
メーカー別にみますと、Hondaは主力のミニバンでステップワゴンのモデルチェンジや新型車種『エアウェイブ』の投入により販売が増加したこと、コンパクトカーの販売も堅調に推移したことなどで販売台数は361,797台（前期比3.1%増）となりました。

、 新車販売部門

新車販売部門はセダン系車種の販売が前期に引き続き苦戦を強いられ、「フィット」をはじめとするコンパクトカーも前年比でマイナスとなりましたが、主力販売車種であるミニバンでフルモデルチェンジをした、ステップワゴンや新型車のエアウェイブの投入効果により、売上高は24億30百万円（前期比3.3%増）と2期連続増加いたしました。

、 中古車販売部門

中古車販売部門は、直販台数（小売）の減少により売上高は3億63百万円（前期比15.5%減）となりました。

、 サービス部門

サービス部門は、管理内ユーザーに対する車検・12か月点検などの整備業務の積極的な取り込みを行い、新車の販売時に提案しているペイントシーラント（新車ボディー塗装面保護加工）の利用率が向上したことなどにより売上高は6億32百万円（前期比1.7%増）となりました。

、 その他部門（ローン、保険）

その他の部門は、新車販売部門と連動する登録手数料等の手数料収入及び、保険手数料収入は、前年と同等で推移いたしましたが、自動車ローン適用金利の引下げにより割賦受取手数料収入が前年を下回ったこと等により売上高は2億27百万円（前期比2.9%減）となりました。

平成18年3月期業績予想

(単位: 百万円)

	17年3月期 通期(実績)	18年3月期 通期(予想)	増減率
売上高	7,547	7,606	0.78%
経常利益	459	410	10.70%
当期純利益	228	243	6.57%

- 新型車(エアウェイブ)、フルモデルチェンジ車(ステップワゴン)の投入効果により売上高は一定確保を予想しているものの、政策的に実施した自動車ローンの金利引き下げを主要因として経常利益は前年より減益を予想しています。

**本日はご来場いただきまして
ありがとうございました。**

本件に関するお問合せ先

株式会社ホンダクリオ東葛

本社：千葉県松戸市小金きよしヶ丘3 - 21 - 1

電話番号：047-346-1190

ホームページ：<http://www.hctk.co.jp>